第2回議会だよりモニター連絡会議まとめ

【開催日時】 令和7年1月31日（金） 午後7時～

【開催場所】 諏訪市役所5階 大会議室

【出席議員】 （委員長）井上 登 （副委員長）森山 博美
（編集委員）藤森 綾子 牛山 実弦 大津 学 小山 博子
近藤 一美 藤森 靖明 岩波 万佐巳 吉澤 美樹郎
高木 智子 大津 学 牛山 正 伊藤 浩平

【議会だよりモニター】 出席者 7人

【協議内容】 1 議会だよりモニターを経験してみたの感想

2 議会だよりを手にとってもらうためには

1. 議会だよりモニターを経験してみたの感想

- ・誘われてモニターになり議会だよりを読むようになった。
- ・最初は読むのが大変だったけど最近はしっかり読むようになった。
- ・モニターになる前は関心のある見出しについては読んでいたが、モニターになってからは、全部読むようになった。
- ・家族にも読むように勧めている。
- ・議会だよりの内容が夫婦の会話になっている。
- ・以前よりカットが多くなり、興味関心が持てるようになった。
- ・ごみ問題や高校生の活動など、これまで関心を持たなかったことにも関心を持つようになった。
- ・よく読み込むととても勉強になる。
- ・さまざまな委員会があると初めて知った。
- ・多岐にわたる内容を話し合われていて驚いた。
- ・議会だよりを作るにも色々なことを考えて作っておられて素晴らしいと思う。
- ・細部に気を配って編集している。
- ・表紙のアイディアは手にとってもらえるよい工夫だと思う。
- ・やってみて良かった。経験しないとわからない。
- ・議会に関心をもってもらうためにも、もっとモニターを増やせば良い。
- ・なかなか難しい言葉が多く読むのが大変。
- ・色見が多く目が疲れる。
- ・数字を見てもピンとこないこともある。
- ・文字が多く難しい内容が多いので、なかなか全部読む方はいなそう。
- ・伝えることは難しい。
- ・文字数がもう少し少なくなるといいと感じる。

2. 議会だよりを手にとってもらうためには

【表紙】

- ・表紙が変わって良かった。関係者が議会だよりを手にする取っ掛かりになる。
- ・表紙が議員よりも、今回の企画のように、関係者に興味を持ってもらえるようなものが良い。関係人口が増えれば、議会だよりを手にしてもらえる人が広がる。
- ・これからも、高校生の作品をお願いしたい。
- ・絵だけでなく、書道などでも良いのではないか。
- ・小学生や中学生の絵を掲載したら親も見てくれると思う。
- ・高校生の絵はよかった。次は中学生や小学生の絵はどうか。
- ・表紙は今のまま絵を続けてもらいたい。
- ・目にとまる、気にとめてもらえる表紙。
- ・表紙の工夫。明るさ、インパクト。
- ・市民（団体など）の作品をのせる表紙。

【構成・内容等】

- ・市報と一緒にすれば見る人が増えると思う。
- ・色使いはできるだけ少なく、文字の行間をあけたら読みやすい。
- ・誰に見てほしいのか？それによって方法も変わるのでは？
- ・どのくらいの人が見ているのか知る方法があるといいのだが。WEBの閲覧数等？
- ・わかりやすい色とレイアウト。
- ・目に訴える紙面（柔らかいイメージ）。
- ・絵や図、時にはマンガのようなものを使うとより親しみやすいのでは。
- ・わかりやすい内容。
- ・日常生活密着型の内容。
- ・話題性に敏感になる（テーマの選び方）。
- ・どの議題も大事だけど、より伝えたいことを特集するのもいいのでは。
- ・一問一答じゃなくて要点をまとめてくわしくはWEBでもいい気がする。
- ・壱岐市のようにクイズを入れる。おもしろいかも？
- ・活字が多い。名前だけでも自筆でも良いのではないか。
- ・子どもが読めるようなものがあれば良い。